
大空～最初の記憶～

紫桜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大空へ最初の記憶へ

【Nコード】

N1468C

【作者名】

紫桜

【あらすじ】

僕の記憶はここから始まった……。僕は兄弟達と引き離されて、独りぼっちになったけど友達ができたんだ！

(前書き)

これは前編です。後々続きます。

僕は家の窓の側で外を眺めていた、外では雨が降っている、僕は目を閉じた。

僕の記憶はここから始まった…。

僕は狭く、暗い空間にいた。自分と何匹かの兄弟がいて何処かに運ばれているのがわかった。

不意に止まった、何処かに着いたらしい。そしてさっきまで僕達と共にあった足音が遠ざかっていく。

しばらくして暗い空間に光が差し込んだ、突然の事で慣れていない光に目がくらんだ。そして人間が覗きこむ

「猫だよ可愛い、お母さん飼っていい？」覗き込んだのは小さい女の子だった。

「うーん……ちゃんと自分でお世話できる？」

「うん!!!」

「だったら飼っていいわよ」

「やったー♪」女の子は満面の笑みで僕の兄弟の一人を持ち上げ母親と歩いて行った。

こうしてどんどん兄弟達は拾われていき最後は狭い空間に僕独りになった。

空はどんよりと曇り空、しばらくすると雨もぱらぱらと降り出した。僕は寒くて心細くて震えていたついには耐えられなくなって泣いた。自分の頬を伝うものは雨なのか涙なのか分からない、それでも僕は大声で泣いた、誰かに気付いて欲しかった。

遠くから“ビシャビシャ”と人が走ってくる音が聴こえる。僕はもっと大きな声で叫んだ『誰か居ないの、僕に気付いて!!!』必死に叫んだ、すると雨が止み上を向くと中学生ぐらいの女の子が覗き

込んでいた。

「可哀想にこんなに震えて。」女の子は僕を抱きかかえるとそのまま歩きだした。暖かかった、優しかった僕はそのまま寝てしまった。気が付くと僕はフワフワした所にいた、暖かく優しい匂いのする所。僕はゆっくりと目を開き辺りの様子を見た。

そこは部屋の中だった、目の前にはさっきの女の子が寝ていたそして自分のいる場所はクッションの上、自分にはタオルが掛けられている。多分この子が僕を助けてくれたんだろう……。『ありがとう』僕はその子に近付き頬を舐めた。

女の子は僕に気付いた

「おはよう、今日からお前は家の子だよ。よろしくね。」僕は“にゃー”と鳴いた『よろしくね』

これが僕の最初の記憶。

そしてこれが僕の最初の友達。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1468c/>

大空～最初の記憶～

2010年12月13日18時27分発行